

必須問題集Ⅱ (2019)訂正表

下記の通り、本書に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

薬理			
頁	問番号	訂正箇所	内容
8		選択肢4	血漿タンパク質との結合の解離促進 → 代謝誘導
9		解答	4 → 3
	(19)	解説	下記解説に差し替え ワルファリンの作用本体のS-ワルファリンはCYP2C9で、グリベンクラミドはCYP2C9、CYP3A4で代謝されるため、お互いに代謝阻害が起き、出血しやすくなったり、低血糖をきたしたりすることが報告されている。
66		(7)	設問
	解説		下記解説に差し替え マラリアにはキニーネやアトバコン・プログアニル配合剤、メフロキンが用いられる。マラリア原虫は宿主の赤血球中のヘモグロビンを取り込み、食胞で分解し、アミノ酸の供給源として利用する。この時、ヘムは原虫に対して有害なため、重合させて、ヘモゾインとすることで無毒化する。カイニン酸とサントニンとは回虫の駆除薬。メロニダゾールは、DNA二重鎖切断により抗赤痢アメーバ作用と抗トリコモナス作用を示す。

薬剤			
頁	問番号	訂正箇所	内容
80	(8)	選択肢3	H ⁺ /有機アニオン交換輸送体 (OAT) → 有機アニオン輸送体 (OAT)
82		選択肢	選択肢4、5を差し替え 4 心臓 5 腸
83		(16)	解答
	解説		下記解説に差し替え 単位体積当たりの血流が大きな組織ほど、分布が速い。速い臓器は腎臓、肝臓、心臓、消化管で、遅い臓器は脂肪、筋肉、皮膚である。
89	(39)	解答	2 → 1
90	(42)	選択肢	下記選択肢に差し替え 1 シメチジン 2 エリスロマイシン 3 イトラコナゾール 4 シプロフロキサシン 5 カルバマゼピン
91		解説	下記解説に差し替え 正答以外は、主にCYPIによる代謝を阻害する薬物であり、自己誘導は起こさない。

(2019.02.07)